

平成27年度 事業報告



社会福祉法人 足立邦栄会 障害者支援施設 みずき

障害者支援施設（生活介護Ⅰ・Ⅱ）

障害者支援施設（施設入所支援）

障害福祉サービス事業（短期入所）

地域生活支援事業（日中一時支援）

心身障害者（児）委託型ショートステイ事業

目 次

I	全体	・・・	P 3
II	生活支援部門	・・・	P 5
	・ 入居支援課（生活介護Ⅰ／短期入所）		
	・ 通所支援課（生活介護Ⅱ／委託型短期入所／日中一時支援）		
	・ サービス管理責任者（全体／入居支援課／通所支援課）		
	・ 医務科（全体／入居支援課／通所支援課）		
	・ 栄養科		
	・ リハビリテーション（共通／理学療法／作業療法）		
	・ 地域コーディネーター		
III	管理部門	・・・	P 18
	・ 管理課		
IV	会議・委員会	・・・	P 20
	・ 日中活動会議		
	・ 予算管理会議		
	・ リスク管理会議／安全委員会		
	・ 人材育成会議		
	・ 権利擁護研修委員会		
	・ 行事委員会		
	・ 食事委員会		
	・ 健康管理委員会		
	・ 広報委員会		
V	データ	・・・	P 28
	・ 入居支援課通期データ（人事・労働安全衛生・利用実績・事故ヒヤリ）		
	・ 通所支援課通期データ（人事・労働安全衛生・利用実績・事故ヒヤリ）		
	・ 利用状況集計（入居支援課／通所支援課）		
	・ 日中活動実績（みずき全体／通所支援課）		
	・ 権利擁護委員会報告（苦情・相談）		
	・ 実習・研修等実績（実習・外部研修・内部研修）		
	・ 医療状況（入居支援課受診状況／通所支援課医療状況）		
	・ 食事提供数集計表		
	・ 設備等保守点検実施状況		
	・ 諸会議実施報告		

障害者支援施設みずき 平成27年度事業報告

I 【みずき全体】

通期	<p>今年度掲げた4点の重点目標については、まず2（人材育成）に全力で取り組んでいくことで、1（つながりを紡ぐ支援）を充実させていく、そして3（地域生活支援）及び4（運営体制の確立）によって、みずきの基盤を固め発展させていくという構造でした。これらの取り組みを一年間継続することで、事業運営・支援推進体制は整備・整理が進んだと捉えています。また各部署・会議体の事業報告からは、課題を認識しつつも、取り組み・実績に基づく肯定的な評価を多く読み取ることができました。</p> <p>しかしその中においても第三者評価のアンケート結果や苦情、虐待案件等、ご利用者の満足度や職員の達成感について、真摯に受け止めなければならない所が多々あります。課題に基づいた組織・仕組み等の絶えざる検証を進めなければなりません。そのためにはPDCAサイクル（計画→実行→検証→改善）の流れを意識することで、課題に計画的・発展的に取り組んでいくことが重要です。</p> <p>加えて、一つ一つの事柄に丁寧に取り組んでいくことの積み重ねを、あきらめずに情性にならずに行なうしかありません。そのためには積極性・主体性が不可欠なのですが、言うは易し行なうは難しです。みずき一丸となって折れずに進んでいくために、ホスピタリティ（思いやり、もてなし、優しさ）精神の浸透が必要と考えます。</p>
重点目標1 「つながりを紡ぐ」支援の充実	
通期	<p>心の豊かさという数値化の難しい目的に向かうため、日中活動や個別支援計画、接遇の向上等に取り組むことで、「つながりを紡ぐ」支援を充実させるということを本年度の重点目標の第一に掲げました。目標に掲げた様々な取り組みを全力で行ない、その成果は具体的に各部署・会議体の報告にも表われています。しかし第三者評価の利用者調査結果やご利用者から挙げられた苦情等から、「利用者満足」という結果の向上は明確には見て取ることはできません。この目標を緩むことなく継続すると共に、みずきとしてより筋の通った姿勢（次年度は「ホスピタリティ」）を打ち出す必要があると感じました。</p>
重点目標1	① 生きがいとしての日中活動の見直し・充実・再編成
通期	<p>日中活動会議を中心にプログラムを作成、実施しました。外部講師や専門職の協力、入所・通所ご利用者の交流等、「生きがい」「つながり」「自己選択」「自立」をキーワードにして、メニューの充実・多様化が進みました。月間予定表の作成、廊下やメニューボード、館内放送によるわかりやすいお知らせにも努めました。次年度も目的を継続、さらに社会参加の視点も重視し、よりご利用者ニーズに応える日中活動支援に取り組んでいきます。</p>
通期	② 個別支援計画と、みずきが提供する支援・サービスをつなげる
通期	<p>個別支援計画の書式を変更し、ご利用者の強みに焦点を当てたアセスメントを実施、ご利用者の夢・希望・願いの実現に向け、ご利用者の強みを活かした支援について考える一年でした。ご利用者の意欲的な計画の理解、計画的な作成・実施、ケア担当職員が経験を重ねること、多職種連携等、課題も少なくありません。業務の整理とスケジュール管理を計画的に行ない、さらに目的に向かえるような個別支援計画の充実を図ります。</p>
通期	③ 心をこめた支援・サービスを提供する姿勢
通期	<p>みずき苦情解決システムに基づく、相談受け付け、解決に至る取り組みに力を入れました。入居ご利用者からの苦情は1年間で21件挙がり、また6月には虐待事件(心理的虐待)も発生し法人の懲戒審査委員会が開催されるなど、ご利用者と施設との信頼関係は未だ十分築けていないと自覚せざるを得ません。権利擁護研修を継続的行なうこと、個別事案ごとの対応を丁寧に丁寧に行なうこと、「良い支援」の評価を行なっていくなど、あきらめずに取り組みを続けていきます。</p>
重点目標2 支援者（＝全職員）として成長できる職場環境作り	
通期	<p>昨年度の職員体制の危機はひとまず脱しましたが、年度末には複数の男性生活支援員の退職があるなどする一方で採用が十分進まず、職員体制は綱渡りの状態が続いています。職員体制の安定のための取り組みは、社会情勢からしても手を緩めることはできません。また人材育成計画については今年度から本格的な取り組みが、担当者等の努力により積極的かつ着実に実行されています。今後人材育成計画の実施が軌道に乗るよう、持続可能な環境整備も必要となるでしょう。</p>
重点目標2	① 離職率を低下させ、安定した職員体制を確立する
通期	<p>昨年度から取り組んできた福利厚生での取り組みの継続・充実に努めました。離職率については11.7%で、目標の10%には届かなかったものの、昨年度(28.9%)からは低下しました。有給休暇消化率については78.6%であり、部署・個人により取得率に差はありますが目標(70%)を達成しました。一方学校訪問、求人広告等積極的に採用活動を展開しましたが、社会的な介護人材不足もあってか、思うような人数の採用は得られず、職員体制の不安定さは払拭できませんでした。今後も意欲を持った職員の定着を図る取り組みを継続していきます。</p>

② 人材育成の具体化・実践	
通期	人材育成計画の実行に本格的に取り組みました。研修については、計画に基づく様々な内部研修を実施、外部研修についても積極的に派遣しています。また職員面談(スーパービジョン)も実施し、個人研修計画シートを用いて、職員個人の意欲・目的意識の向上や心身面の把握、キャリア形成につながるよう取り組みを進めていますが、3回の面談時間を十分確保できなかった部署もありました。これら計画の実施は、大きな業務負担を必要とするものではありませんが、次年度以降は今年度の経験の蓄積を利用して、効率的に効果的に計画の推進を図っていく必要があると考えます。
③ 部署間・多職種連携の強化	
通期	みずき全体(多職種・部署間連携)での日中活動の企画・調整、各部署への経費の適正執行働きかけ、防災訓練やヒヤリハット通信の取り組み、人材育成計画に基づく研修の実施、職員の声を集める「キャッチカエル」ポストの設置及び権利擁護研修の実施、みずき祭りの企画・準備、課を越えたおやつ作り活動、口腔ケア講習・イベント湯の実行、広報誌「サンライズ」の作成といったように、会議・委員会活動が活発に行なわれる中で、目標に向かった取り組みは強化されていると思います。今後も日常の連携を密にすることで、相互理解を深めていきます。
重点目標3 みずきだけでは完結し得ない地域・自立という課題への、みずきとしての取り組み	
通期	みずきの中に地域が強く根付いたかということ、取り組みが十分とは言えず、まだまだその実感は多くのご利用者・職員にはないと思います。しかし入所ご利用者の外出活動、通所や短期入所ご利用者へのみずきにおける支援は、地域と出会う大事な場面です。個別の自立支援、ボランティアの受入れ、相談支援等他事業所との関わり等、地域との関わりが実はたくさんあるのだという気づきを持ち、さらに今後の地域生活支援に向けた事業展開を検討する中で、目標に掲げた内容をさらに推進していきたいと思います。
重点目標3 ① 地域交流・自立生活支援プログラム	
通期	地域コーディネーターを配置し、日中活動等(情報検索、利用者有志ミーティング、ピアカウンセリング、外出体験等)を通し、地域情報の提供や自立生活支援に取り組みました。まだ自立的活動への意識を促す支援に留まっていますし、自立というのみずきから出て行かなくてはならないという捉えになってしまいがちです。考える力、判断する力をつけるための経験を積み重ねることが、自立の第一歩でありゴールであるという認識の下、具体的な活動を積み重ね発展させていくことが今後ますます必要となります。
② 相談支援等関係機関と連携した支援	
通期	法人内の相談支援事業所とは、サービス管理責任者を中心に連携を行なっています。また他法人の相談支援事業所による計画相談を利用しているご利用者も入所・通所ともいらっしゃり、必要に応じた連携は行なっています。ご利用者の包括的な生活支援を考える中で、みずきの考えが常に正しいわけではないし、ご利用者を中心に地域やご家族等多角的な観点から、より良い支援を模索していくという意識が大切だと思います。今後はケア担当者も含めた連携意識のさらなる向上を図る必要があります。
③ 地域生活に係る利用者ニーズの把握と地域生活を支える事業展開の構想	
通期	入所ご利用者に対しては、東京都地域移行促進コーディネート事業の「地域生活に関するアンケート」、通所ご利用者・ご家族に対しては、みずき独自で「みずき利用と地域生活に関するアンケート」を実施しました。しかしそれらのニーズを踏まえた事業展開の構想までは至らず、第三者評価においても中長期ビジョンの作成が課題として指摘されました。地域移行、地域貢献という取り組みが必須とされるようになった事柄について、ご利用者のニーズに基づきこれからのみずきを担う職員達が、その構想や展開を担っていけるような取り組みにつなげていくことが課題です。
重点目標4 長期的なビジョンに立った安定した経営・運営体制の確立	
通期	組織を生活支援部門と管理部門に分け、また部署・会議等の位置づけを明確にすること等を通して、経営・運営体制の整備は進んだと捉えています。今後は生活支援部門、管理部門とも、相互の専門領域に対する理解を深めていき、各々の業務のさらなる適正化に取り組んでいく必要があると考えます。そのためにも経営・運営について俯瞰できる視点を持ちバランス感覚を身に付けた指導層の育成に力を入れていきます。
重点目標4 施設運営の根幹となる部分の検証、周知	
通期	権利擁護については、権利擁護委員会(運営会議内設置)を機能させること、及びみずき苦情解決システムの周知や丁寧な実行に努めました。種々の権利擁護研修も実施し、職員一人ひとりが権利擁護の主体的な推進者となれるよう今後も絶えざる検証と取り組みを進めていきます。リスクマネジメントや記録管理については、現場に即した具体的な取り組みがなされました。これら具体的な取り組みと、全体を俯瞰する包括的な指針が、相互にフィードバックしていくことが大切です。

②	経営分析機能・能力の強化
通期	経営会議や予算管理会議にて、人員配置や予算の執行管理等行ないましたが、目標に掲げた中長期的な経営ビジョンの下、経営分析機能・能力を高めていくという取り組みは不十分でした。必要な経費を計画的に執行できる現場職員、利用実績に基づく収入と適正な経費について理解できる指導層、人員配置や大規模修繕、将来の事業展開等踏まえ予算管理能力を身に付ける経営層といった、多層的な取り組みが必要と感じました。
③	業務の効率化、組織のスリム化の検討
通期	東京都のサービス推進費や三市の補助金に支えられた、みずきならではの職員配置・組織構成がされています。基盤が揺らいだ職員体制・組織の整備にまだまだ力を割かざるを得ないのが現状です。法令遵守規程に基づく事業運営を強固なものにし、職員体制を安定させた上で、目標に対する課題を明らかにするところから今後取り組んでいきたいと思っております。

II 【生活支援部門】

【入居支援課】

通期	ご利用者の加齢とともに障害の進行や出来ていた事が出来なくなり、対応量も増加してきていますが、施設としては出来る事出来ない事を明確にし平等なサービス提供を行わなければなりません。しかしながら訴える事の出来る方への対応が集中し、訴える事の難しい方々へのサービス提供が少なくなってしまう事は改善出来ていないのが現状です。 職員の体制的には年度末に男性職員の退職が複数名あったものの安定した配置が出来るようになりました。 人材育成は施設または法人全体としての大きな課題である為、継続した取り組みが必要となります。
生活介護 I	
重点目標1 ご利用者全員が平等にサービスを受けられるようにする	
通期	結論としてはサービスの平等性や公平性の落差は縮まらない現状が改善出来ていません。また訴える事の難しいご利用者に対し何を支援するのか具体的な取り組みも出来ていなく、今後の課題としても残りました。
重点目標1	<p>① 訴えることの難しい方々への支援増、平等な支援</p> <p>通 上半期同様日中活動以外ではプラスαの支援に結びつかず特に日常のケアの部分で細やかな支援が行き届いていない状況です。</p> <p>② 職員会議での検討、ケア担当業務でのコミュニケーション、年4回のケアカンファレンス</p> <p>通 一人年間4回のカンファレンス実施は実施できませんでしたが、ユニット会議内での意見交換は活発に行われ、日常の支援に結びついたものもあり有意義だったと言えます。</p>
重点目標2 働きやすい環境を職員全体でつくっていく	
通期	当初危機的な状況であった女性職員の配置については一定程度充足し、有給休暇も比較的取りやすい環境にもなりました。ただし職場環境を現場職員が自分達で整えていく事までは取り組みが進んでおらず、本当の意味で職員の声を拾ってはいないと思っております。また年度末のところで男性職員の配置状況が退職や異動で、厳しい状況になっています。
重点目標2	<p>① 離職率10%以下を目標とした取り組み</p> <p>通 今年度の退職者は9名（内常勤ケアワーカー3名）で概ね目標は達成したと言えます。</p> <p>② 有給消化率60%以上を目指しての取り組み</p> <p>通 入居支援課の平成27年度有給休暇取得率は65.4%でした。数値的には目標をほぼ達成していますが、退職者の残有給休暇取得や欠勤の多い職員の取得を含めての数値なので、平均的に取得出来たとは言えません。</p>
重点目標3 職員が目標を持って仕事に取り組めるようにする	
通期	今年度は外部研修への参加を推奨し多くの職員が研修に参加しました。参加した職員は研修で得た事を業務に生かす事も出来ていたようです。また研修で得た事を他の職員に還元する意味でユニット会議内で報告会を実施しました。
重点目標3	<p>① 面談を年3回実施し、個々の目標を明確化しスキルアップ</p> <p>通 面談については現場業務を行う中で時間調整が上手く出来ず、3回の実施は出来ませんでした。次年度は計画通りに進められるよう時間調整をしっかりと行う必要があります。</p> <p>② 職員間の連携や情報共有を確実にこなすため話し合う機会を頻繁に設ける</p> <p>通 職員同士話し合う機会としてはグループを有志でつくり、障害や病気を調べお互いに勉強し合う事を取り組みとして行いました。しかし業務を改善するような話し合いを持つ事は出来ず、職員間の連携は次年度の課題として残りました。</p>

	③ 自己啓発のため、外部研修への参加を積極的に推進	
通期	外部研修の参加機会を増やした事で新たな知識や情報を得る事が出来、自己啓発にもつながりました。	
	④ ご利用者とのつながりを深めるため、より良いサービス提供のため、職員の質を高める取り組みを検討する	
通期	介護技術チェックはほとんどの職員がまだ未実施の為、引き続き次年度も行っています。	
重点目標4 日中活動の在り方の再構築		
通期	今年度は最終的には現場職員の関わりを目標としてきましたが、結局中々分担に組み込む事も出来ず、日中活動の担当職員に任せっきりでした。ただし日中活動の提供としてはゼロからのスタートだっただけに担当者の頑張りには評価出来ると思います。	
重点目標4	① 時間に幅を持たせたメニュー設定、専門職と現場職員の協働、活動室へ移動しての参加	
	通期	ご利用者の意見や要望を聞きつつ多様なメニューを提供出来たと思います。現場職員との協働が今後の課題です。
	② 活動の捉え方の根本的な見直し。ご利用者の自主的な活動参加を促す	
	通期	年間を通して提供方法やご利用者の参加の仕方も大分形になったと感じます。自由参加型なのでご利用者によっては全ての活動に参加しようとされたりもしていた為、対応人数が増えてしまい待つ時間が多くなってしまいました。今後は参加人数が分散できるような提供方法が求められます。
	③ ご利用者ニーズに沿った外出の検討	
通期	体調面等問題のない方以外は滞りなく外出を行う事が出来ました。普段とは違う顔が見れ、付き添った職員達も新たな発見が出来た機会となりました。	
重点目標5 介護職と医療職のスムーズな連携		
通期	今年度は看護師が入居支援課所属となった事でより一層の連携が求められました。ケアワーカーとの連携を深める為に毎月看護ミーティングを実施しましたが、看護内の業務整理に時間を要し、連携のところまでは検討が進みませんでした。	
重点目標5	① 指示系統を明確にし、介護・看護それぞれの判断で動かす、スムーズに連携できるシステム構築	
	通期	指示系統は大分明確になりましたが、介護、看護共に個人の判断で動いてしまう事は多々ある状況です。そこでも連携や職員間のコミュニケーションが不足している事が要因となっています。
	② 報告・連絡・相談の意識を持ち、情報共有した上で統一した支援を行なう	
通期	後期から通院対応にケアワーカーも対応する事になり、より医療の重要性や意識を業務の一環として捉えなければならなくなってきました。しかし施設職員としての役割や使命の理解はまだ出来ておらず、介護、看護それぞれが任せっきりになっているところがあります。	
短期入所		
重点目標1 女性職員の業務体制が一定程度改善し次第、女性短期入所を再開する		
通期	下半期は、男女合わせての利用率は、74.0%でしたが、女性のみでは、44.3%という結果になりました。要因としては、6ヶ月で4回以上の利用希望のある、リピーターとなる利用者が2名のみであったことが考えられます。新規利用も3名のみであり、更なる新規利用者とリピーターの増加を図るための、取り組みが必要といえます。	
重点目標1	① 女性職員勤務体制の再開の目安の達成	
	通期	1年通して、女性職員の配置は安定した状態であり、女性短期入所受け入れに関して、支障はない状況でした。
	② 職員体制が整い次第、以前のご利用者中心に再開の報告・案内	
	通期	利用経験がある方6名と新規利用3名の9名の利用がありました。休止以前より利用のあった方・新規の方共に想定を下回る状況でした。地域のニーズが現状の利用状況と合っているとはいえない為、より効果的な地域への情報の発信が必要であると考えられます。
	③ 女性の利用率は平均70%(1床)を目指す	
通期	10月以降、下半期通して利用状況に変化を生じさせることができませんでした(利用率44.7%)。情報の発信(新規利用の獲得)と支援の質の向上(リピーターの増加)、両面でのアプローチが重要であると考えられます。	
重点目標2 医療ケアが必要な利用者に対し、全員が「特定の者」での実地研修を取得する		
通期	進捗状況にほぼ変化はなく、医療ケアが必要な利用者の利用日数は増えていますが、研修の終了状況は上半期とほぼ変わらない結果となりました。要因は、看護との連携不足もあると思いますが、職員個々の医療研修への取り組み意識が足りない事が挙げられます。	

重点目標2	① 医療ケアが必要なご利用者の名簿化、情報の整理
	通期 引き続き名簿の共有はできませんでした。短期入所担当職員が情報の整理等にまで手が回らず、情報は増えていく一方で整理がされず、曖昧な状況となってしまいました。
	② 医療ケアが必要なご利用者に、年度最初の利用時に研修実施の同意書を取る
	通期 上半期同様、年度の最初の利用で同意書を取っています。
	③ 医療ケアが必要なご利用者の利用ごとに、研修プログラムを作成し実施
	通期 現場（介護職）・短期入所担当共に、短期入所の受け入れの実施で精一杯といった状況で、プログラムの作成・実施ができませんでした。
重点目標3 新規の短期入所利用者を獲得し、安定した短期入所事業の運営を目指す	④ 年間15日以上利用＝同性職員の50%、30日以上利用＝同性職員の100%が実地研修を終了
	通期 医療ケア（喀痰吸引・経管栄養）が必要な方で、年間30日以上利用された方は、いませんでした。但し、下半期は研修自体の進捗が滞っている状況であり、研修自体の見直しが必要です。
通期	男性は上半期同様、利用される方の偏りはありますが、安定して受け入れができています。女性は下半期の利用率が、44.7%（1床計算）となっており、男女比や職員配置も考慮した上でも、物足りない利用率となってしまいました。女性の10月以降の登録者（利用者）は9名のみ状況のため、新規の利用者の獲得とリピーターを増やすことが必要です。
重点目標3	① 希望者・関心のある方からの問い合わせ・見学希望に、担当者が対応することで統一、丁寧な対応・説明を図り、利用前の満足度の向上を図る。お試し利用の割合を増やす
	通期 引き続き、下半期も利用説明及び面談の調整は短期入所担当者にて実施し、面談も可能な限り参加致しました。新規でお試し利用された方は4名で、2・3月でお試しされた方以外は、複数回ご利用頂いています。
	② 利用時はニーズを十分検討したサービス提供書を作成、利用中はサービス管理責任者中心にプランの進捗状況を確認し、満足度の向上を図る
	通期 上半期同様、2回目以降については、サービス管理責任者のみでの作成になっており、適切な振り返り等が実施出来ませんでした。会議設定など、定期的に打ち合わせする機会を設けることが必要であると考えられます。
	③ 入居支援課運営会議にて、ご利用者の意見・要望を報告し、解決を図るシステムを構築
通期 女性利用者へ虐待ともいえる職員の心無い発言があり、ご家族より苦情あり。課内での取り組みとして、注意喚起と共に、施設長より「権利侵害」の研修を実施しました。このような件もあった為、表面化されていない問題も潜在していると思います。根本な利用者支援についてもそうですが、「短期入所の意義・必要性」について、職員への更なる理解を得る取り組みが必要であると考えられます。	

【通所支援課】

通期	事業計画で掲げた内容（個別支援計画・日中活動・研修・リスクマネジメント・地域展開等）に基づいて日々の事業運営を行なうこと、Ⅱ課内諸会議についての位置づけを明確化し実施すること等に取り組み、障害者支援施設みずきとして実施する生活介護（通所）事業という基本姿勢は、内外にある程度発信できたと思います。ただし個別支援計画の充実や、コミュニケーション支援、安心・安全な支援体制・環境整備等、継続して取り組まなければならない課題も少なくありません。課長非配置（施設長兼務）という体制は、主任等現場の核となる職員の自覚と成長につながった反面、様々な調整や連携、より現場に根ざした運営方針の提示、運営方針の現場への具体的展開等に課題を残しました。
生活介護Ⅱ	
重点目標1 個別支援計画に基づく支援の充実	
通期	個別支援計画の書式が、「得意なこと、やりたいこと、できること」に着目した新たなものになりました。取り組み初年度ということもあり、職員間での周知、プランの実行、ご利用者への定着等、課題が残りました。次年度に向けて、作成から実施、評価、見直しに至るPDCAサイクルを確立し、書式変更の趣旨を浸透させていく必要があります。また個別対応マニュアルを必ず年度初めに見直すことご利用者の包括的な支援像をしっかりと捉えることも大事です。
重点目標1	① アセスメント
	通期 今年度始め、ご利用者、ご家族に対して「ご利用者さんの今の暮らし・将来の願いや希望に関するアンケート」を実施しました。これによりニーズの核となる部分の理解が進んだ一方で、記載の少ない方の理解の進め方や、ご利用者とご家族のニーズの捉えの違いへの配慮など、より客観的で積極的なアセスメントの必要性も感じました。

② 個別支援計画（ケアプラン）作成	
通期	ケア担当(生活支援員)が作成・実行の主体となる目標に対しては、その仕組み作りを進め実行しましたが、取り組みが遅れてしまったこともあり、まだまだ現場に定着したとは言えません。PDCAサイクルが定着するよう、積極的な協働作業を今後さらに推し進めることが課題となっています。
③ モニタリング	
通期	下半期になりグループミーティングの開催がようやく定着してきました。今後もグループミーティングを通して、日常支援の課題やケアプランの進捗状況を確認していきます。また次期プラン作成のため、3月には期末評価をケア担当が実施しました。
重点目標2 みずきに来ることが楽しみになる日中活動の展開	
通期	年間予定で掲げた行事・外出を確実に実施しました。またこれまでのⅡ課内の日中活動に加え、みずきとしての日中活動プログラムに取り組み活動の幅は広がりました。毎月の利用者懇談会で活動の希望確認を行ないましたが、計画段階からのご利用者の参加という点では十分取り組めたとは言えません。今後ご利用者のニーズとみずきが提供する日中活動のマッチングに取り組みます。
重点目標2 ① ご利用者に応じた活動メニューの提供	
通期	これまでの通所支援課内の日中活動に加え、みずきとしての日中活動を実施しました。スヌーズレン、陶芸、音楽療法、ピアカウンセリングなど、Ⅱ課ご利用者を対象としたもの、美容講習会、グループリハ、呼吸リハ、ボッチャ、カラオケなど、ⅠⅡ課両方のご利用者が参加するものなど、プログラムの幅は広がりました。
② 外出行事の見直し	
通期	新緑ピクニック外出、生田緑地への一日外出、初詣外出、選択外出と、目的の違う外出行事を実施しました。またご利用者ニーズや支援体制等踏まえみずきとしての外出行事のあり方についても議論をし、次年度はさらに目的を明確化した外出行事を提案することとしました。
③ 個別活動の充実	
通期	ケアプランの進行が遅れてしまったこともあり、個別活動の実施は下半期になりようやく軌道に乗りつつあります。次年度はさらに個人ニーズに基づいたオリジナルな個別活動の設定と確実な実行を進めていきます。
重点目標3 安心・安全な支援を提供する	
通期	様々な研修による職員の支援力向上について取り組みは進みました。職員体制等運営状況は比較的安定していましたが、職員間の連携やコミュニケーションに課題が残りました。緊急・急変時の対応・連絡や、ヒヤリハットを肯定的に捉える意識改革等、安心・安全な体制づくりに向けて、より実際の支援場面に即した研修等が必要と実感しました。
重点目標3 ① 介護・支援についての技術・知識の向上・研鑽	
通期	人材育成計画に基づく内部研修や面談（スーパービジョン）、種々の外部研修参加等積極的に行ない、職員の知識、経験、意欲向上に向けてのアプローチは進みました。一方で個別の支援方法、安全確保（急変・緊急時の対応含む）、接遇、コミュニケーション等、OJTによる支援力の向上を更に図る必要があります。
② 目標利用率の達成とサービス提供体制の見直し	
通期	通年での利用率は87.6%で、目標(90%)、26年度実績(88.1%)を若干下回りました。利用終了者、短期入所・入院等による長期欠席等の影響がありましたが、想定内の範囲で、職員配置も比較的落ち着いていたため、運営的には安定していたと捉えています。また土曜の利用や入浴のあり方等議論を進め、次年度の土曜の営業日化と入浴の実施という方針策定に至りました。
③ 事故・ヒヤリハット報告のさらなる活用	
通期	安全な支援環境のさらなる構築に不安を残す事故（医療関連や事故の未報告など）が発生し、再発防止策の徹底を図りました。またヒヤリハット報告の積極的な提出を呼びかけ、報告件数は増加しましたが、一方で職員の中で事故ヒヤリ＝非難されるものという意識が根強いことも明らかになり、リスク係中心にマイナスイメージの払拭と気づきの報告の推奨に取り組み出しました。
重点目標4 利用者ニーズに沿った地域生活支援の構想	
通期	日々の生活支援、個別支援計画を中心としたご利用者理解、ご家族や相談支援・行政等の関係機関との連携、これらが深まって包括的な地域生活支援につながるという視点の共有は進んでいると思います。一方で今年度はニーズの把握と課題の共有に留まった段階と言え、みずきとして今後何をすべきかという構想につなげていきたいと思っています。

重点目標4	① 利用者懇談会・家族懇談会の継続・充実
	利用者懇談会については一年間継続して実施しましたが、ご利用者に必要な情報をお届けし意見交換の場として機能したかという点について課題が残り、次年度の実施方法の検討を行ないました。家族懇談会については計画通り4回実施しました。活動内容の紹介、食形態体験、アンケート結果の説明、第三者評価結果の報告等、運営・活動状況について幅広い内容で実施できたと思います。
	② 地域生活に関するニーズの把握
	7月に「みずき利用と地域生活に関するアンケート」を実施し、15名のご利用者と29名のご家族から回答をいただきました。集計結果についてはご利用者・ご家族への報告、職員間での周知、12月の三市報告会での報告等、様々な場面で取り上げました。今後のみずきの事業展開に向けての資料としても活用していきます。
重点目標4	③ 地域の社会資源の把握、他機関との連携
	地域への発信、地域からの受信という点では不十分でした。一方ご利用者の生活支援等について、相談支援事業所や行政等と必要に応じた連携は、主任やサービス管理責任者を中心に積極的に行ないました。
委託型短期入所	
重点目標1 安心・安全な支援の提供	
通期	府中市が開始になったことにより、ようやく経営的に成り立つ事業となり、長期的な視野で事業を継続していくという見通しを持つことができました。一方で日々の利用人数及び新規ご利用者の増加、服薬事故の発生、夜間の急変及び緊急時の対応等、支援・体制を見直さなければならない課題が浮き彫りになり体制整備に努めました。
重点目標1	① 滞在環境の見直し・整備
	個人ファイルの整備や洗濯物を入れるランドリーバスケットの導入など細かい所は対応できたところもありますが、大きなレイアウト変更等を行ないませんでした。府中市の利用が本格化し、3～4名利用の日も増えてきたので、安心して安全な滞在環境作りに引き続き取り組んでいく必要があります。
	② 個別の支援体制の確認
通期	服薬体制の見直しや日勤と夜勤者の確実な申し送り等見直しを行ないました。今後受入れにあたり、支援・介助・コミュニケーション方法、服薬の確認、緊急時の対処方法等、安心・安全に滞在できる情報収集及び受入れの可否の判断等、体制整備を更に進めなければならないと考えます。
日中一時支援	
重点目標1 みずきが提供する日中一時支援の基盤の検証・確立	
通期	外的状況の変化等もあり、利用者数はやや減少しました。予約方法の変更や職員配置等の体制整備に取り組みました。また事業の位置づけについてももう一度設立当初に戻り、長期的なライフサイクルにおける支援の中でのみずきの位置づけについて再確認し、次年度医療的ケアを要するご利用者を、看護師実施の下生活介護と同様の受入れ基準で受け入れるという方針を立てました。
重点目標1	① 提供体制の見直し・整備
	当初は受入れ人数の調整も行なっていましたが、徐々に必要なくなっていました。一方で委託型短期入所のご利用者の日中利用として日中一時支援を利用するケースが増えており、本体の生活介護事業とトータルとしての一日の受入数について、今後は留意していく必要が大きくなっていきそうです。
	② 連絡・連携
	通期
重点目標1	③ 環境整備
	通期

【サービス管理責任者】

通期	<p>年度当初のケアプランの立案が遅れたことにより、半期の見直しこそ行いましたがケアプランの修正・変更まで繋げることができず、スケジュール管理が大きな課題となっています。サービス全般の一元的な管理責任者である職務から、業務が多岐に渡り、ケア担当者の育成やケアプランの進捗管理といったサービス管理責任者の核となる業務に支障をきたしているのが現状です。サービス管理責任者の課題を解決するためには、まずは業務を整理する必要があると考えます。</p>
I・II課共通	
重点目標 ケアプランの様式を変更し、「ご利用者の強みを活かした」支援につなげる	
通期	<p>ご利用者の強みに焦点をあてアセスメントを実施し、ご利用者の夢・希望・願いの実現に向けて、ご利用者の強みを活かしてどのように支援を提供するか、ご利用者にも自身の強みを認識していただくことや、自身で出来る事があることをケアプランを通して考える1年でした。できないことに着目せず、できること（強み）を活かすという支援のありようは、時間はかかりますが、今後も継続することで少しずつでも浸透するようにしていきます。</p>
重点目標	① ご利用者と一緒にご利用者の「強み」を見つけ、それを支援するケアプランを作成する
通期	<p>上半期報告にあるように、ご利用者の強みをケアプランに反映したつもりでしたが、特にI課については第三者調査のご利用者評価の中にはケアプランがわかりにくいとの意見が多数ありました。ご利用者の希望や願いが計画に盛り込まれ、それがご利用者にきちんと伝わる内容であることを意識して次年度は計画作成、ご利用者への説明を行います。</p>
入居支援課	
重点目標1 ケア担当者がケアプランを作成できるようにする	
通期	<p>ケア担当者がケアプランの作成に関わる事で、ご利用者にどのような支援を行いたいかを考えるきっかけになったり、より担当するご利用者を知ろうとする姿勢は以前より増して見られるようになってきています。しかし、担当するご利用者の支援課題の複雑さや、ケア担当者の力量によってケアプランの原案作成の段階で支援の焦点のズレなどがありました。これについてはサビ管としてのケア担当者への個別指導の至らなさや、アセスメントにケア担当者が参加できなかったことなどが理由に挙げられます。会議の力は大きく、次年度はケア担当者が支援検討の場に参加できるようにしていきます。</p>
重点目標1	① 様式をわかりやすくし、ケア担当者が作成しやすいものにする
通期	<p>様式についてケア担当者より特に使いづらいとの意見はありませんでしたが、ケアプランの各項目の意味について、ケア担当者が理解できていないと思われる状況がありました。これについては逐一指導を行いました。ご利用者のニーズや背景については、ケアプランの様式というよりは、アセスメント会議やご利用者との面談にてケア担当が把握できるようにしていきます。</p>
重点目標2 ケアプランの取り組み(外部関係者報告含む)を計画通りに行なう	
通期	<p>今年度より支援状況報告書についてはケア担当者を中心に行うようにしました。状況報告書を書くにあたりケアプランの理解と実施することが必要になるため、支援の進捗を意識する意味でも今後もケア担当者が作成するようにしていきます。ケア担当者が作成するようになり、遅れていたスケジュールについても取り戻す事が出来てきています。</p>
重点目標2	① ケア担当者業務を見直し、ケアプラン作成や支援を滞りなく進める
通期	<p>ケアプランの作成については、ケアプランを作成したことのない職員が多く、戸惑うことなどもあり期限までに作業を終了できないケースもありました。ケアプランの実施については、ケアプラン作成の際にケアプランの内容を理解して、担当業務の時間を申請して支援を進める人とそうでない人に分かれてきました。担当業務の時間はとりづらい状況ではありますが、実際に計画通りの対応ができた職員もいるため、まずはケアプランに掲げられたことは行わなければならないという意識を持つことが必要だと考えます。個々のケアプランの前に、ケアプランの意義について理解を高める必要があると考えます。</p>
② ケアプラン作成について、職員に対する研修を行なう	
通期	<p>ケアプランの作成についての研修は年度当初に行いましたが、年度途中から入職した職員には説明の機会を作る事ができませんでした。また、ケアプランの中間評価や支援状況報告書については、職員個別に直接もしくは書面にて指導を行いました。</p>
重点目標3 「利用者個人ファイル」を整備する	
通期	<p>個人ファイルについて新しい内容については必要に応じてファイリングしていますが、廃棄が一向に進まない状況にあります。</p>

重点目標3	①	前年度明確化した必要書類について、各書類作成担当者による作成・更新をすすめ、個人ファイルを完成させる
	通期	ケア担当業務の時間の設定が難しい中、各ケア担当者に書類の作成や更新を促す事は出来ませんでした。しかし、長らく更新できていない重要な書類もあるため、次年度は早めに期限を設定のうえ更新できるように働きかけていきます。
通所支援課		
重点目標1 重度重複障害のご利用者のグループ・個別の活動の充実、ご利用者と職員の「つながり」をさらに強められるよう、課と連携して日中活動を充実させるプログラムを作成する		
通期	<p>個別支援活動は、11月～3月の期間で合計57回実施しています。当初予定では191回の実施を予定しており、実施率は約30%にとどまりました。その理由としては、個別支援活動の開始が11月からになったことが大きな要因と考えられます。次年度は、ケアプランを計画通りに作成し、5月から個別支援活動をスタートさせたいと考えます。</p> <p>また、個別支援外出を予定していたご利用者は10名いましたが、実施できたのは5名でした。実施できなかったご利用者の中には、本人の体調不良によるものもありますが、実施が5名にとどまった大きな理由として、サービス管理責任者及びケア担当者がしっかりと個別支援計画の内容を把握していなかったことが挙げられます。次年度は、ケア担当者が中心となりケアプランを作成します。サービス管理責任者は、ケアプランの把握に努めるとともに、ご利用者、ケア担当者と相談しながら個別支援外出の実施時期を明確にして実施していきたいと考えます。</p>	
重点目標1	①	重度重複障害のご利用者の活動を企画する担当者の設置を求め、その運営に参加・サポート
	通期	ケア担当者に情報機器を用いるための研修に参加してもらいましたが、個別活動に活かすまでには至りませんでした。iPadの活用頻度自体は上がっていますが、その利用方法は、音楽、映像観賞が主となっています。情報機器の活用には、ご利用者が使用しやすいような機器の設置や活用方法の検討が必要になる為、そのための時間の確保等が難しかったのではないかと思います。次年度は、情報機器活用の取り組みを一旦保留したいと考えます。
通期	②	具体的に組みこめる個別活動をケアプランに明記し、個別活動の充実を図る
	通期	今年度は、個別支援活動に取り組む内容を中心に、ケアプランを作成しました。その結果、行うことや実施回数が明確になり、具体的に組みこみやすくなったのではないかと思います。その反面、日常のケアの部分がケアプランに記載されなくなったため、次年度は、これまで職員間のみで共有していた個別対応マニュアルを、ご利用者・ご家族にも提示したいと考えます。
重点目標2 意思表示の難しいご利用者への取り組みについて、ご家族とのつながりを強める		
通期	今年度は、家族懇談会でご利用者の様子を伝えることの他に、みずき祭りで展示したみずきでの活動の様子を写した写真を、各ご利用者に配布しました。次年度は、定期的な面談実施を実施することはもちろんですが、送迎や連絡帳などを活用して、小さな関わりを積み重ねていくことも行ってきたいと考えます。	
重点目標2	①	家族懇談会の際に、みずきでのご様子を伝える
	通期	年4回実施する家族懇談会のうち、今年度は3回、活動の報告を実施しています。活動の様子を、スライドを用いて観ていただくことで、普段、なかなか目にするのでできない活動中のご利用者の様子をご家族に伝えることができました。ご家族の反応も、概ね好評だったのではないかと思います。ただし、家族懇談会に出席するご家族は、限定的である為、今後、家族懇談会に出席されないご家族に対してどのようにアプローチしていくかが課題となるのではないかと思います。
通期	②	面談を年2回以上実施する
	通期	面談については、サービス管理責任者の不在期間があったため、中間時期の面談が行えず、ケアプラン説明時の面談のみの実施となりました。次年度は、当初からスケジュールに組み込み、計画的に面談を実施します。

【医務科】

全体	
通期	<p>【入居】 全体的には大きな医療事故は起きていません。後半（2～3月）に肺炎などの体調不良者が続出するということがありました。健康管理への取り組みを継続します。看護業務の整理や見直しは概ねできています。</p> <p>【通所】 医療ケアに関するケアレスミスや新たな課題もありますが、介護職員との協力や連携体制を継続（強化）していきます。</p>
重点目標1 医療に関する相談および施設内の連携体制(書類作成を含む)の整備を行なう	
通期	<p>今年度後半、医務科は1人部署となっています。1号、3号研修指導と研修関連書類（認定申請等）や医療関連書類（診断書など）の取り扱い、健診、予防接種の手配や実施、欠員時の看護業務補助（I課、II課）が主な業務になっていました。これらを着実にこなすことが（見えない部分での）連携に繋がっていくと考えています。</p> <p>現場で使っている書類、記録類の修正や整理は継続中です。医療関連記録の整理については、量が多いので更に1年かけて行っていくようにします。</p> <p>医療相談については、MSWが退職したことで行っていません。</p> <p>常勤医師の退職が決まり、医務室を整理しています。診察室として整備し、日々の診察や処置に使えるようにしていきます。</p>
重点目標1	① 関連会議等への参加を通して具体的な連携方法を見つけていく
通期	「具体的な連携方法」がはっきりしたわけではないですが、上半期で上げた業務内容が一つの方法であると考えます。
通期	② MSWの役割を知ってもらうために、相談支援の時間を医療相談につなげる
通期	MSWの退職により下半期は取り組みはありません。
通期	③ 入居支援課看護と連携して、緊急・夜間以外の通院・入院対応をする
通期	業務分担上必要な場合に対応しました。
通期	④ 外部医療機関との連絡・調整を行なう
通期	特に問題なく行えています。
通期	⑤ 医療・看護の緊急時情報提供書を作成し、適宜修正しながら医療連携に役立てる
通期	緊急ファイルは必要に応じて活用しています。
通期	⑥ 嘱託医のレセプト補助業務として、施設内診療の医療処置に関するとりまとめをする
通期	処置報告書記載がリーダーの診察補助業務として定着し、滞りなく行われています。
通期	⑦ 「看取り」に関する施設方針や書類整備など、医師を含む関係職員で検討していく
通期	2月に法人内研修（特養さくら）で看取りについての講義を受けました。その時に頂いた看取り関連書類を参考に、既存の積極的医療および終末期医療に関する意思確認書を修正しました（常勤医師による）。さらに必要な修正を加えたうえで、次年度以降の契約またはケアプラン説明時に取り交わす予定です。看取りに関する施設方針はまだ検討中です。
重点目標2 ご利用者及び職員の健康管理、感染予防を行なう	
通期	年間予定で組んでいた事項に関しては実施しました。
通期	<p>感染予防研修： I課職員「吐物処理の実技」実施 10/27、11/3、10、17 II課職員「吐物処理の実技」実施 12/22 I課利用者「施設における感染予防」11/16、17、18、19 II課利用者「施設における感染予防」11/11、12、13</p>
重点目標2	① 年2回の健康診断を実施
通期	<p>健康診断受診者数第1回：利用者 32名 職員 69名 第2回：利用者 31名 職員 66名（H28.2/16、17実施）</p> <p>第2回健康診断では、利用者1名の再検査（血液検査）と職員7名の受診勧奨（産業医の指示による）を行いました。また、上半期同様、家族宛に通知書を送付し、結果の概要と施設での対応をお知らせしています。</p>

② インフルエンザ予防接種や日常の感染予防対策を行ない、感染症の発生予防に努める	
通 期	インフルエンザ予防接種：利用者 30名 職員 61名 接種後の経過観察では、副反応はみられませんでした。 2月に利用者1名、A型を発症シタミフル服用。前後で発熱者は複数出ましたがインフルエンザ簡易検査で陰性でした。経過観察中の3月に、原因はそれぞれ違いますが（細菌性、誤嚥性など）気管支炎や肺炎での入院が6名となる事態が発生しました（施設医師の診察を受け、投薬等の対応はしていました）。
重点目標3 認定特定行為事業者としての体制整備、認定特定行為業務研修の整備を行なう	
通 期	28年度以降、福祉系専門学校卒業生は基本研修（50時間の講義＋演習）を修了してきます。実地研修期間が決まっており、施設内での研修の流れも変わると考えられます。課題は短期入所利用者の実地研修で、介護の業務分担としてどうやって組み込むか、（介護の）担当者と検討していきます。実施報告書についてはすぐには対応できないので、ワーカー側の検討課題として考えてもらうよう要望しました。
重 点 目 標 3	① 事業所として必要な書類を、手順に従って整備、運用、保管する
通 期	マニュアルに則って扱い、書類の流れは定着してきています。
重 点 目 標 3	② 人材育成会議と連携して、施設内研修プログラムの組み直しを検討する
通 期	人材育成会議と具体的に連携はしませんでした。業務分担の関係上、担当主任との打ち合わせで進めることが多く、今後も主任・副主任との連携で進める方が現実的であると考えます。 3号実地研修は2名が修了していません。予定はしていますが、業務分担の内容や時間帯によって実施できないことがよくありました。業務との兼ね合いが課題です。
入居支援課看護	
重点目標1 予防的かかわりを通して重症化を防ぐ	
通 期	皮膚トラブルの発生頻度がやや増加していることから、介護職員に対しスキンケアの重要性、予防的かかわりが出来るように注意喚起、啓発が来ていません。 事例ごとに看護師が直接観察することを励行し、利用者個別のケアを指導していきます。
重 点 目 標 1	① 日常の健康観察や健康診断、本人訴えや介護職員からの情報を基にした観察により、異常の早期発見に努める
通 期	異常の早期発見に努め、常勤医の施設内診療には繋がたが入院に至った利用者が数名いました。今後、重症化を防ぐために外部受診への判断を的確に行えるように看護間および関係者との連携の強化に努めます。
重 点 目 標 1	② 管理栄養士や理学・作業療法士と連携し、合併症予防および改善に向けての必要な対応を行なう
通 期	必要に応じそれぞれの職種との、相談・連携を行ったが周知へつながらない事もあったため、次年度は定期的にケア会議を開催し検討する事で情報の共有・周知を図ります。
重 点 目 標 1	③ 施設医師と連携し早期対応に努める
通 期	看護判断のもと早期対応、外部受診を継続し常勤医師へは経過報告を行い連携を図りました。今後は嘱託医との連携に努め、早期対応、外部受診を継続します。
重 点 目 標 1	④ 個別に必要な専門科への定期通院を継続し、治療が続けられるよう配慮する
通 期	個別の定期通院や臨時の外部受診の同行を主に看護職が担う事により、病状把握や通院予定の調整が円滑に行えています。今後も可能な範囲で継続していきます。
重点目標2 ご利用者の「自立」について医療・看護の側面からの支援を考える	
通 期	看護の目指す「自立」の再検討（対象や内容、進め方について）は検討ができませんでしたが、車椅子を自走し買い物ができる2名の利用者は、自身の症状を看護師に相談しアドバイスを受け自身で薬局にて市販薬の購入が出来ました。 今後も個別での対応を継続しながら「自立」の検討をしていきます。
重 点 目 標 2	① 健康診断と連動した、看護師による健康相談を検討
通 期	健康相談実施について周知されていない事と利用者自身が健康管理の意識が希薄な事から取り組みが出来なかったと考えられます。 今後は健康相談を受けるという形式を変更し、健康診断の検査結果を利用者と共に確認しあう事で利用者が自身の健康に関心を持てるように支援していきます。

	② 個別の必要に応じた保健指導を計画
通期	対象者3名については見守りを継続します。
	③ 日常の健康管理にご利用者自身が関わられるような取り組みをしていく
通期	「自分の体温計を持つ」については個別で提案を続けているが実現には至っていない。ケア担当と連携し（ユニットの職員会議での提案）実現へ向けての取り組みを継続します。
重点目標3 看取りの看護(介護)について検討していく	
通期	外部研修への参加により看取り看護（介護）の必要性や重要性を学びました。今後、施設内での勉強会や情報提供の方法を検討していきます。
重点目標3	① ご利用者本人とご家族の意向を確認する
通期	必要な対象者に対し再確認しましたが変更の意思はありませんでした。
②	介護職員との意思疎通を図るため職員会議などで話題にし、併せて職員の不安解消に努める。また研修(勉強会)について検討する
通期	看護師側が研修中のため具体的には取り組んでいません（継続事項）
③	具体的な対応について、施設方針や手順に基づき、業務として組み込んでいく
通期	医務科との連携のもと取り組みへ向けた検討を行っていきます。
重点目標4 組織改編に伴う看護業務の見直しを行なう	
通期	業務整理については課題は残っているが概ね整いました。また、事例ごとに丁寧な説明や話し合いを重ねる事で、意識の温度差が縮まってきています。
重点目標4	① 新体制での看護業務を進めるために必要な人材を検討し、その確保を求める
通期	常勤1名の配置がありましたが、週末の対応やオンコールの対応が常勤看護師2名では不十分なため、さらに4月から常勤1名が補充されます。常勤3名体制を定着させ新体制での看護業務を進めていきます。
②	看護業務内容の整理・見直しを行なう
通期	日々の分担表による業務については徐々に定着されてきています。係や細かい業務分担については調整中ですが、常勤3名体制の定着後に整理、見直しを行っていきます。
③	看護師がご利用者や介護職員と積極的に関わっていくための業務分担を検討・作成・実施・修正を行ない、看護業務および医療・看護サービスの充実を図る
通期	業務改善を継続中ですが、介護職員との連携については、ケアステーションのユニット分担表に当日の看護師の名前を表示することで、声をかけあいやすい状況ができています（継続）。
通所支援課看護	
重点目標1 ご利用者に安心・安全な医療サービスを提供する	
通期	今年度は服薬に関する事故やカテーテル抜去の事故が発生し、利用者に安全なサービスを提供できない状況も起こりました。そこで、服薬については、どのような場面での薬の管理の場合でも、分包の仕方や記名などを統一・工夫し、よりわかりやすくすることで事故を防ぐよう努めました。また、他の事故の場合にはすぐに検証を行い事故を防ぐための対策を多くの職員と検討し実施していく事で事故防止につとめています。
重点目標1	① ご家族、かかりつけ医、訪問系事業者など、ご利用者を取りまく地域との連携を通して、質の高い医療サービスの提供に努める
通期	今年度は利用者の入院が多く、それに伴う身体状況の変化も多い年でした。そこで、退院後安心して利用を再開できるように、これまで以上に利用者を取り巻く方々との連携と情報収集につとめて行きました。
②	介護職員への医療ケア研修の継続と定期的な評価を行ない、事故防止に努める
通期	医療ケア研修は計画通りに実施出来ました。特定行為業務従事者の登録も順次行っています。吸引や経管栄養に関する事故等も無く安全に実施できていますが、研修後の定期的な評価は十分に行えていません。また、吸引や経管栄養以外の医療的ケアについての研修も今後計画的に実施していく必要を感じています。

【栄養科】

通期	<p>栄養ケアマネジメントをもとにご利用者の栄養状態、健康状態に応じた食事提供の実施を継続的に実施してきました。栄養科職員の層が定着し、状況に応じた食事提供（経口摂取移行訓練、病時食等）の実施を安定的に行えるようになりました。</p> <p>他部署との連携でご利用者の意見をもとに作成した献立や、部署全体で考案するイベントメニュー等の新メニューの増加により、更に食事提供の幅を広げることが出来ました。</p> <p>課題としては27年度中に安定的な提供実施を行うことが出来なかった軟菜食調理ですが、次年度も引き続き試行、試作を行い、提供実現に向けて計画してまいります。</p>
重点目標1 栄養ケアマネジメント	
通期	<p>各ご利用者の栄養ケア計画書の目標達成のための具体的な栄養管理を実行しました。32名中19名は平成27年度の目標を達成できました。栄養状態の高リスクのご利用者が27年度当初は5名でしたが、年度末には3名に減少しました。高リスクの方が中リスクまで改善したことは他職種との連携ができ栄養面での支援が具体的に実行できたことによります。課題である栄養ケアの評価は体重や健康診断の結果に偏っているため、他職種でモニタリングできるシステムを整えることで、より詳細に評価できるように改善していくことが28年度の課題です。</p>
重点目標1	<p>① 対象ご利用者の疾病、栄養状況により、低・中・高リスクの3段階に分類し、個々に応じた必要所要量の食事提供を行なうことで、より細かな栄養管理を実施する</p> <p>通期 ご利用者の健康状態や栄養状態をアセスメント・モニタリングし、提供する食事や経管栄養剤のエネルギー量の見直しを行いました。</p> <p>② 新たな取り組みとして、「多職種で連携してモニタリングできる仕組みづくり」、「余暇スペースを利用した栄養相談及び栄養講習会の実施」、「病人食(ケア食)の提供」を実施する</p> <p>通期 モニタリングできる仕組み作りはモニタリングシートの案を作成しました。来年度実施できるよう計画したいと考えています。栄養講習会は月2回実施し、平均して4名程度の参加がありました。栄養相談は栄養ケアの一環として居室で行いました。病時食の提供は5月末に提供開始して以降、ご利用者の体調不良時に提供しています。</p>
重点目標2 食事の質向上	
通期	<p>毎月食事委員連携で実施する、ご利用者のアンケート意見をもとに部署会議等で通常、イベント等の献立作成を実施しました。年間を通して従来のサイクルメニュー内に新しいメニューを増加させたことにより、好評をいただくことが多くなり、食事提供内容の幅を広げることができました。次年度は新しい試みとして「誕生日献立」の提供を計画しています。食形態の軸になると考える軟菜食の提供が27年度中に実現できていないため、次年度以降に引き続き継続する課題も残りました。</p>
重点目標2	<p>① 軟菜食レベル「歯茎で噛みきれ硬さ」を目標として、提供実現に向けて計画を進める</p> <p>通期 後期では軟菜食の試作を毎日実施し、職員及び対象としている食形態を召し上がっているご利用者への試食を実施しましたが、27年度中に安定した軟菜食提供の実現はできませんでした。要因としては肉、魚等のタンパク質食材の軟化が「歯茎で噛み切れる硬さ」に達していなかったために、試食の際にご利用者から食べづらいといった意見が多くきかれ、再検討再試行が必要となりました。野菜に関しては一部食材を除いて試行を繰り返すことで、安定的に調理すること可能となり、試食を行ったご利用者からも食べやすいとのご意見をいただくことができました。次年度も引き続き試作と試食を実施していきながら、目標としている形を達成できるよう試食結果の情報収集をもとに計画を進めていきます。</p> <p>② ご利用者の高齢化に向けたメニュー作りを部署職員全体で実施していく</p> <p>通期 メニュー全体の構成として減塩、食物繊維強化を考慮した献立作成や、病時食等の提供は実施しましたが、みずきご利用者のアンケート結果においても高齢化に向けたメニューを求めるニーズが現状として多くない状態です。しかし、高齢化に伴う食事摂取への影響もみられる部分もあるため、軟菜食提供が開始された段階で再度どのような形で高齢化に向けたメニュー提供を行えるのか、計画の検討を行い答えを出す必要があると考えます。</p> <p>③ 週1回の選択食の実施回数増を年度内の実施に向け計画を進める</p> <p>通期 毎日実施していた軟菜食の試作、試食を優先的に実施していたため、選択食の実施回数増加を図るための人員配置が行えない状況でした。そのため、軟菜食提供が開始された段階で再度計画したいと考えます。また、次年度の計画に「誕生日献立」提供を計画しているため、計画どおり実施した場合、食事の選択、リクエストの機会は増加することになります。</p>

重点目標3 中長期計画	
通期	こまめ事業所の一体化について、27年度年間を通して進捗状況が大きく変化することがなく、調理室拡張及びこまめ事業所への食事提供に関する具体案の企画を進められませでした。次年度以降の進捗状況を確認しながら計画を立てていきたいと考えます。また、通所ご利用者を対象とした外部への食事宅配等を計画し、食事宅配が出来るよう土台作りを別の方向での検討をしていきたいと考えます。設置から10年以上経過する調理機器の更新に向けて、調理機器取扱い業者との商談を27年度末から進めています。更新時期は次年度を予定しています。 調理職員の委員会配属により、他部署との情報共有及び委員会毎の企画が提案される等の栄養科内だけ補えない部分の活動が増えてきました。次年度以降も委員会活動を活発化することで、食事提供の質向上を全体で図っていきたいと考えます。
重点目標3	① 栄養科中長期計画の具体案を企画する
通期	こまめ事業所の一体化について、27年度年間を通して進捗状況が大きく変化することがなく、調理室拡張及びこまめ事業所への食事提供に関する具体案の企画を進められませでした。次年度以降の進捗状況を確認しながら計画を立てていきたいと考えます。また、通所ご利用者を対象とした外部への食事宅配等を計画し、食事宅配が出来るよう土台作りを別の方向での検討をしていきたいと考えます。設置から10年以上経過する調理機器の更新に向けて、調理機器取扱い業者との商談を27年度末から進めています。更新時期は次年度を予定しています。
	② 調理職員ごとに役割を明確にし、キャリア形成を図る。また適切な人員配置を計画する
通期	栄養士、調理職員ごとの役割を明確化し調理指導や献立作成、食事提供以外でのイベント時のイラストカードの提供等、トータルでの食事提供内容の幅を広げることが出来たと考えます。また、常勤職員がそれぞれ委員会に配属されたことにより、他部署との連携した企画等の実施で栄養科以外での活動も活発化し、施設調理職員としての求められていることをそれぞれ確認することが出来た1年であったのではないかと考えます。しかし、昨年度からの職員食提供による食数増加と、2年目の調理職員育成のを中心とした部署運営のシフト配置であったため、個人個人の研修参加の機会を作ることができませんでした。次年度の課題として、現状求められている食形態の改善に向けて、調理職員の技術、知識習得のための研修は必須であるため、研修機会の増加を計画して進めていきたいと考えます。

【リハビリテーション】

理学療法・作業療法共通	
重点目標 基礎となる身体づくりから様々な活動への参加まで、幅広い視点に立ち、多職種と協働しながら、リハビリテーションを展開する	
通期	個別リハビリや日中活動の時間などで、リハビリテーションを展開してきました。身体づくりから活動への参加まで、いろいろな形で関わることができましたが、量的な不足や生活に根付かせていくことの不十分さがありました。多職種の取り組みにもリハビリテーションの視点を取り入れていけるように、日々の生活の中で実施できる形を模索していきたいと思ひます。
理学療法	
重点目標1 変形・拘縮の予防、呼吸機能の維持に努める	
通期	利用者の急な身体状況の変化に対して、迅速にポジショニングや移乗方法の検討を行い対応することが出来ました。しかし、緩慢な経過を辿る利用者に対するポジショニングの見直しがされていない現状があります。定期的なポジショニングの検討をするとともに、その必要性を多職種で認識する必要があります。
重点目標1	① 外部研修に参加し専門知識・技術の向上に努める
通期	後期は「重症心身障害者の意思決定支援」、「地域難病地域研修会」に参加しました。研修で得た知識を伝達講習などで多職種で共有できていないので、ユニット会議などの時間を頂き講習会を行っていききたいと思ひます。
	② ご利用者に対する定期的な支援
通期	明確な目標設定を設定することが出来ずに、目標が曖昧な支援を行ってしまったケースがありました。明確に目標、期限を設定して支援を行い定期的に見直しを図るよう改善していきます。
重点目標2 ご利用者各々の状況を理解し、コミュニケーションを深めるためのチームアプローチを実施	
通期	介助方法などの検討を行いました。日常的に定着させることが出来ませんでした。生活にリハビリテーションの要素を取り入れるために、日常生活におけるポジショニングの必要性が認識されるよう働きかけることが必要です。
重	① 職員会議に参加し他職種との連携を積極的に行なう

重点目標2	通期	ユニット会議を通して日常生活での利用者の情報や問題点を多職種で話し合うことができ、利用者の支援に活かすことが出来ました。専門職としての立場から問題提起をし、より良い支援を多職種と考える必要があります。
	通期	② 他職種と共同して日中活動を行なう 日中活動を多職種で行うことは人員配置の点から難しく、専門職同士で共同することまでしか出来ませんでした。
作業療法		
重点目標1 日中活動で「やりたいこと」「できること」が実現できるような支援をする		
通期	興味が薄れてしまった方への新たな活動の提示ができなかったり、意思表示の読み取りが難しい方について「できる」活動を提供するまでは至りませんでした。活動内容に興味を持ち続けることが出来た方については、1年間を通して参加する状態を継続することが出来ました。	
重点目標1	通期	① ケアプランに作業療法による支援を位置づけていく 明確な希望のある方に対しては、個別リハビリや製作活動で支援を行ってきました。意思表示が読み取りにくい方については、ケアプランに具体的活動として位置づける形には出来ませんでした。日中活動などを通し、日々の関わりを継続してきました。
	通期	② 提供できる活動内容を検討し実施する 興味関心に適合させる形で、日中活動・個別リハビリの参加につなげることができた利用者がいました。明確な意思表出のない方に対しては、現在行われている日中活動などを通し興味関心を探りましたが、新しいものに取り組むところまでは至りませんでした。
重点目標2 支援者として支援技術のレベルアップを図り、多職種と影響し合える環境を目指す		
通期	研修を受けることにより、内容への理解を深めることは出来ました。しかし、他者が理解できるように説明する段階まで、自分自身で消化しきれていない状況でした。また、他職種が日々の業務の中で実施できる形での支援の提案が課題となりました。	
重点目標2	通期	① 外部研修の受講とケース検討 後期に、シーティング講習（実技）と人間作業モデル（評価編、治療編）を受講しました。受講内容の理解については不十分な点が残りましたが、それぞれの講習であらたな気づきを得ることができました。伝達講習については、時間の確保ができず、実施できませんでした。
	通期	② 多職種とのケース検討 様々な機会でもケース検討を行い、利用者の理解を深めてきました。その方に対する理解に加え、他職種の関わりや環境面への配慮など広い視点で物事をみるなかで、より良い支援につなげていきたいと思えます。
重点目標3 車椅子製作・修理に関する環境を整備する		
通期	修理に関する物品を確保しながら、緊急のトラブル対応に当たってきました。また、製作修理に関する書類の書式を作成し使用しています。使用を継続していく中で、より良いものにしていきたいと思えます。	
重点目標3	通期	① 車椅子製作修理に関する書式を整備する 車椅子製作修理に関する書式を作成し、使用してきました。継続して使用しながら改善点を見つけていきたいと思えます。過去の記録の整理は、当初考えていた部分よりも収集すべき記録の範囲を拡大する必要があります。計画の見直しが必要と考えています。保管書類の整理とあわせ、今後実施します。
	通期	② 車椅子メンテナンスに関する物品を整える 緊急での修理への対応は、その都度可能な限り実施してきました。今後も必要な物品を確保しながら、迅速に対応できるようにしていきます。

重点目標	1.地域の情報を提供し、ご利用者が自己選択できる機会を増やす 2.ご利用者との話し合いの場を通し、本当に何を望んでいるのか理解を深める
通期	上半期に続き、下半期も地域情報の提供や日中活動を通して地域への興味や関心を高める取り組みを行ってきました。目に見える成果としては大きなものはありません。 課題として、ご利用者、職員へ役割が理解が図れていないことが挙げられます。何の活動をするのか、どのようなことをする人なのか理解されていないことで、どの様な支援を依頼したらいいのかからず、その状況も把握できずないことがありました。来年度は学習会や研修を通して役割理解を促進していきます。
重点目標	① 個々の自立的活動を、日中活動の機会を活用し促進する
通期	今年度は、ご利用者それぞれにやりたいと思うことを、実践を通して必要な情報の収集方法やその方法を学ぶ活動の提案を予定していましたが、ご利用者からやりたいと思うことが意見として出てこない状況であった為、自立的活動への意識を促す支援に留まりました。
通期	② 問題解決、そのための方法などをご利用者同士で検討する場を提供する
通期	今年度は、利用者有志ミーティングで“生活を自分達でつくる”をテーマにやりたいことを話し合い、実現を目指す取り組みをしました。しかし、何かを実現する為にはどのようにしたら出来るのか、誰の支援が必要なのか、いつ誰と行うかなど現実的に解決しなければ進まない多くの問題に直面し、その都度、どこに相談をしていくかなど必要な情報を提供してきましたが、ご利用者それぞれの社会経験や理解能力にも差があり、内容を理解することが難しく、グループで話し合う事に行き詰まっている様子がありました。参加継続もどうなるかという状況の方もおり、展開については見直しを行っていきます。
重点目標	③ 地域資源の情報を、面談、掲示等を通して提供する
通期	日中の活動のひとつとして情報検索の時間を設け、欲しい情報の検索方法の提案やiPodやパソコンでの検索フォロー、さらに生活上での困りごとやどうしたらいいのか悩む際にどのような解決方法があるのか情報提供を行ってきました。しかし、利用されるご利用者はまだまだ少なく、“情報検索の時間は何をするのか？”というご意見もあり、利用者会議や掲示物を通して活動の内容を伝え、実際の活用につながる働きかけを行いました。今後はケアプランや個別支援の具体的な場面で情報提供から活用につながるよう、また情報の必要性についてご利用者の理解をはかっていきます。
重点目標	④ 地域生活に興味のあるご利用者に対し、自立プログラムの提案等、計画相談業務を試行する
通期	ピアカウンセリングでは、活動目的の理解やカウンセラーとの関係作りを行いました。話しをすることがなかったご利用者が少しずつ話しをされている様子です。カウンセラーの協力で社会資源を使った外出体験（フィールドトリップ）を企画し、実施までの流れを一緒に行いましたが、介助者に頼る意識が強く、達成感や自信には繋がりませんでした。来年度はまずはやってみようと思いかからやってみよう、何でだろう、出来るようになろう、他の人はどうしているのだろうという思いに繋がる支援の提供を行います。

Ⅲ【管理部門】

【管理課】

通期	声掛け・挨拶によりご利用者・職員との「つながり」を持ち、朝礼や各会議を通し、課内・他部署・他事業所との「連携」を図ってきました。これらを目標としたことにより、今年度は「つながり」「連携」の意識づけができました。次年度も更なる課内環境の向上を目指し、より一層の力を入れていきます。検討会、勉強会、課内討論は、課題・問題意識の統一という点では効果がありましたが、課員のスキルアップに繋げていくには内容をより精査し、有意義なものにする必要がありました。今期より始まった人材育成研修は、課員の施設業務理解につながり有意義なものであり、スキルアップの向上、業務効率の強化という点で課業務に直結する別サイドからの外部研修の必要性を強く感じました。
重点目標	1 課内及び他部署との連携強化
通期	課外からの支援依頼への積極的対応、個人ルーティンワークの状況報告や問題点への対応検討、相互に指摘し合える課内環境が作られてきており、課内意識のコンセンサスは取り易くなってきている。課内会議での「思いやり」「気付き」項目においては、各自に反省とそれなりの行動があり、管理課職員への意識的な効果はありました。次年度は、同様に職員資質への変化の為のアクションを取り続けていきます。
重	① 「みずき」施設の人間性のある管理課

重点目標1	通期	課内討論会の実施 (計画) 12回/月 (実績) 12回/月 達成 全員発言の課内会議をコンスタントに行い、課内各業務の現状と問題点を共有する姿勢が出てきている。単なる作業者ではなく、課内での協業を基にしたオープンで個性的な環境づくりを目指してきました。
	② 課内業務の相互知識を高め、管理課窓口の柔軟化	
	通期	課内勉強会の実施 (計画) 12回/月 (実績) 12回/月 達成 各自の業務関連知識や情報を持ち寄り、1回/月の課内会議にて共有を図ってきました。他課員の業務を知り、管理課以外の職員の質問に表面的な対応すらできなかった状態が、一つ先を見た対応を各自が出来るようになり、管理課タスクと捉えるような雰囲気変わってきています。
③ 朝礼で業務情報共有と課題・問題点に対して意識の統一を図り、他部署連携を取る		
通期	前項②同様に他部署情報を共有することにより、管理課タスクと関連した連携を図ってきました。事務以外の情報・状況を知る事により連携行動を図っております。	
重点目標2 他事業所の連携及びバックアップ体制の強化		
通期	課内で挙げた各目標を意識的に消化してきた結果、各課員のモチベーションの変化が見られてきました。全般的に粕江事業所の支援としては、上期同様の情報共有と事務処理検討を行いました。その一環として相談支援のシステム導入を提案し、今後の準備段階として勉強会のテーマとしサービス及びシステムの理解に努めました。しかし、みずきと粕江間の相互で、連携の必要性和連携アイテムを明らかにすべき能動的活動が欠けていたためバックアップとまではいかず、本来あるべき相互交流に至らなかった。	
重点目標2 ① 業務過程の見直しとチェック機能の強化		
重点目標2	通期	業務効率・合理化検討会の実施 (計画) 6回/年 (実績) 7回/年 達成 課内勉強会を通して業務効率化を意識するとともに省エネ・合理化検討会を行い、経費削減に繋がる活動アイテムを試行してきました。中でも無駄な消耗品節約、エアコン老朽化による機器更新と電気料金の節約等の見直しを行いました。次年度は、電力自由化が本格化し有効的な電力会社を摸索し、契約の見直しと料金削減を図ります。
	通期	② 粕江事業所との情報共有、業務省力化のための相互交流を図る 事業所間交流の実施 (計画) 4回/年 (実績) 5回/年 達成 粕江事業所の支援としては、上期同様の情報共有と事務処理検討を行いました。みずきと粕江間の相互で、連携の必要性和連携アイテムを明らかにすべき活動が欠けていたため本来あるべき相互交流に至らなかったが、みずきのイベント時及び日常において、こまめクッキー・嗜好品販売などの活動に協力してきました。
重点目標3 課内における業務効率及び施設運営の適宜な提案・情報提供		
通期	自己満足的な評価はあってはいけませんが、管理課としての提案、情報発信は概ね実行し、削減効果においては計画達成を果たしました。しかし、全組織的・全職員への全般的な啓蒙、意識改革に寄与できたとは思えず、本来の働きかけによる職員意識への浸透については、ボトムアップでもトップダウンでもなく管理課として適切な教育を摸索しながら、継続して行っています。	
重点目標3 ① 問題意識、提案活動と個人資質のスキルアップ		
重点目標3	通期	業務効率・合理化検討会の実施 (計画) 6回/年 (実績) 7回/年 達成 重点目標2-①と同様のコメントとなりますが、課内勉強会を通して業務効率化を意識するとともに省エネ・合理化検討会を行い、経費削減に繋がる活動アイテムを試行してきました。中でも無駄な消耗品節約、エアコン老朽化による機器更新と電気料金の節約等の見直しを行いました。次年度は、電力自由化が本格化し有効的な電力会社を摸索し、契約の見直しと料金削減を図ります。
	通期	② 経費削減の継続。前年対比▲2% (1) 経費削減(電気・水道量)： 対前年(計画)▲2% (実績)▲2.7% 達成 電気・水道量ともに前年対比削減を果たしており、料金においては▲9.2%となりました。また、ガスを含めた水道光熱量としては 対前年▲5.1% 料金は対前年▲10.2%と大幅な削減を果たしております。使用料金の大幅な削減効果は、世界的な資源価格の暴落が原因と思われます。28年度の料金削減は期待できそうもないが、使用量削減活動は継続して行います。 (2) 経費削減(消耗品使用量) (計画)前年対比▲2% (実績)+5% 未達成 3年に1度のウイルス更新を除けば文具及び通常消耗品について対前年比▲21%という大幅な削減結果となりました。みずき収入である障害福祉サービスは来年度以降も政策が不安定であり、収入増は不明確です。現状の収入で安定的な経営を行うためにもコスト削減の意識は必須であり、実行しなければなりません。職員の努力によって経費削減ができる意識が今後、施設運営の安定にもつながり更なる利益計上を実施するためにも不可欠な要素です。今後とも啓蒙活動の一環として物品購入時、職員への声かけを行い、経費削減(消耗品)を実施。職員のコスト意識化を図ります。
③ 職員、各予算編成及び作成部署の四半期毎の経費執行率の情報発信		

通 期	(計画) 毎月 (実績) 四半期及び毎月 達成 掲示版で情報発信を計画通り行いましたが、四半期ごとに単なる発信を行った結果となりました。発信することによってどのような効果が見込めるのか四半期報告内容の精査を行い、来期へ繋げます。
④ 職員に対して、発生費用の情報提供、可視化を行なう	
通 期	(計画) 毎月 (実績) 四半期及び毎月 達成 掲示版で情報発信を行い意識向上を図りました。職員に対する啓蒙活動の実施方法・職員の経費意識付けには問題点が残りましたが、成果として大量使用消耗物品発注者のコスト意識変化に伴い、大量発注物品の手袋仕様変化及び、タオル使用についても更なる枚数管理を行うまでとなりました。来年度以降も物品発注者のみの意識付けで終わるのではなく、全職員に浸透するような発信方法、発信内容の検討を行い、職員への意識化を図ります。

IV【会議・委員会】

【日中活動会議】

会議日		検討・実施内容
4月	17日	新プログラム（呼吸リハ）を検討。各講習会の責任者変更。美容講習会の材料費有料化を検討。
5月	15日	次月新規プログラム「情報検索」「合唱サークル」の検討。活動記録の方法と記録責任者の確認。
6月	12日	「褥瘡講習会」の検討。活動名を分かりやすい名称に変更。歯磨き講習会を試行。
7月	10日	リラクゼーションとレクリエーションを各課に移行することを検討。歯科衛生士と歯磨き講習会の継続を確認。
8月	14日	美容講習でおこなう内容の希望を聞き取り調査。ご利用者向けにイラストによる活動予定表を作成し、提示する。
9月	9日	上半期の振り返りを実施。次月Ⅰ・Ⅱ課交流を目的とした「ポッチャ」「カラオケ交流会」を検討。
10月	14日	情報検索は試行的に回数を増やして実施。
11月	11日	次年度の課題抽出。日中活動で得る「生きがい」とは何かを検討。
12月	9日	上半期の振り返りを実施新メンバーを迎え、委員会の役割の説明。今後の日中活動のあり方の検討。次年度の予算編成に向けての予算計上。
1月	13日	次年度予算として、園芸、楽器、アロマオイルなどを申請。日中活動会議の重点目標「やる気やいきがいを感じる活動を提供する」をもとに、設定理由及び内容を各自で検討。
2月	10日	日中活動会議の重点目標「やる気やいきがいを感じる活動を提供する」をもとにした、設定理由及び内容の最終案を検討。
3月	9日	利用者が参加しやすく対応しやすい活動提供を検討。4月より第4木曜日の14時～16時で会議日時の変更を検討。

総括

通 期	日中活動のプログラムを見直し、外部講師や専門職に協力を得ることで、その内容を充実させました。ご利用者は美容師によるおしゃれ講習会や、楽器を使っての音楽療法などを楽しまれました。また、健康に関する講習会や軽体操などに参加され、自分の健康管理について意識を持たれています。毎月の日中活動会議では、こうしたプログラムが利用者の方々の満足に繋がっているかを検討したり、見直したりすると共に、継続的に実施できるよう調整してきました。今後はⅠ課、Ⅱ課のご利用者が一緒に参加できるようなプログラムの作成、Ⅰ課・Ⅱ課の交流が望まれています。
--------	--

重点目標1 目標のある日中活動の設定

通 期	「目標のある日中活動」を設定するにあたり、今までのレクリエーションという枠を取り払い、ご利用者の「生きがい」や「自立活動」に繋がる内容になることを目指しました。どのぐらいご利用者の「生きがい」や「自立活動」に繋がったかは検証が必要ですが、各ご利用者のケアプランを視野に入れて組み立てたプログラムも多く、ご利用者の個性が表現されるような場所となりました。
--------	--

重点目標2 活動を通じた「つながり」の構築

通期	<p>日中活動プログラムをご利用者の参加しやすい時間に、定期的を実施することにより、ご利用者の日中活動プログラムへの参加が徐々に習慣化してきました。ご利用者は参加を楽しみにされ、職員はご利用者の参加のために誘導や排泄、入浴時間に配慮することにより、ご利用者の参加を支えてきました。</p> <p>同じ日中活動プログラムに参加することにより、ご利用者同士でプログラムを楽しくしようとする「つながり」が出てきたり、参加のために配慮や協力してくれる職員との「つながり」を感じられるようになってきました。</p>
重点目標3 ご利用者の生きがいにつながる「場（プログラム）」の提供	
通期	<p>全体に活動と社会参加という視点は薄かったようです。ピアカウンセリングや情報検索はプログラムとして取り入れています。社会とのつながりを感じる活動状況にはなっていません。唯一みずき祭りがそのような「場」の提供となっています。ご利用者の作品を販売したり、合唱サークルと職員と一緒に歌を披露するなどの機会が設けられているからです。</p> <p>何がご利用者の生きがいにつながるのかという視点を強め、日中活動の中にもそのような「場」を設ける努力がこれからも継続して必要です。</p>
重点目標4 「自己選択」の機会の提供	
通期	<p>日中活動プログラムの多様化に取り組んだことにより、ご利用者の「自己選択」の機会提供に繋がりました。また、日中活動が行なわれる場所までの移動が必要になったことで、職員がご利用者の参加の意思を確認する機会が増えました。</p> <p>プログラムがどこで何が行われているかを分かりやすくし、廊下に絵で表示したことはご利用者に好評でした。朝のアナウンスでのインフォメーションの方法については、まだ改善の余地がありそうです。</p>

【予算管理会議】

会議日		検討・実施内容
4月	28日	26年度 決算予測、今年度の予算管理会議のあり方
5月	28日	26年度 決算報告
6月	26日	5月度月次報告、分析
7月	28日	6月度月次報告、分析、前年度対比
8月	25日	7月度月次報告、分析、前年度対比、28年度予算スケジュール
9月	22日	8月度月次報告、分析、前年度対比、28年度予算予算要望書式と方法
10月	27日	9月度月次報告、分析、前年度対比、28年度予算日程 予算要望書式と方法
11月	24日	10月度月次報告、分析、前年度対比、28年度予算策定方法
12月	22日	11月度月次報告、分析、前年度対比、28年度予算策定方法再確認 みずきにおける人件費推移
1月	26日	12月度月次報告、分析、前年度対比、27年度決算見通し 28年度予算一次原案 27年度予算管理会議振り返り
2月	22日	1月度月次報告、分析、前年度対比、27年度決算見通し 28年度予算二次原案・見通し
3月	24日	2月度月次報告、分析、前年度対比、27年度決算見通し 28年度予算案確認

総括

通期	<p>会議を通して経営指標のひとつである月次資金収支計算書及び前年対比事業活動計算書を報告。現状どのような経営状態であるのか、勘定科目においてはどのような費用が大幅な発生なのか、正常値なのかという要因についても認識効果がありましたが、みずきにおいてはどのような指標・分析が必要なのか模索・検討が必要です。平成28年度予算策定においては各部署・会議体で積み上げ予算作成を実施することによって意識化になるきっかけとなりましたが、職員に対するコスト意識・理解については課題が残る結果となりました。今後どのような実施方法で効果的な経費の認識・意識化を図るのが当面の課題です。みずき運営においてコスト意識は必要不可欠な課題のひとつです。来期むけてもコスト意識化を取り組みます。</p>
----	---

重点目標1 職員全体に予算への理解と意識を高める

通期	<p>会議体での予算視覚化に留まり、会議体として職員への経費意識化・啓蒙については、発信を行わなかった結果となりました。今後、会議体でどのような方法で実施を行えば職員に効果的な経費の認識・意識化ができるのか、模索・検討を行い来年度に繋げます。</p>
----	---

重点目標2 経営を意識した経営分析、予算執行状況を管理

通期	<p>総括通期の同様なコメントとなりますが月次において、資金収支計算書、事業活動計算書の報告を行うことによって会議参加者に経営意識・予算執行に対する認識の一步となりました。しかし今度どのような経営指標・予算執行状況管理を行うことによって施設運営に貢献ができるのが今後の課題となりました。</p>
----	---

【リスク管理会議】

会議日		検討・実施内容
4月	22日	①安全委員会報告 ②5月防災訓練について ③救命講習会について ④ヒヤリハット通信
5月	27日	①5月防災訓練について ②救命講習会について ③ヒヤリハット通信 5/27 防災訓練(夜間火災想定)
6月	24日	①7月防災訓練について ②救命講習会について ③ヒヤリハット通信 6/1, 3 普通救命講習(23名受講)
7月	22日	①防災訓練の反省 ②9月総合訓練について ③ヒヤリハット通信 7/22 防災訓練(設備・備品等点検)
8月	26日	①9月防災訓練について ②感染症の講習について ③ヒヤリハット通信
9月	30日	①総合訓練反省 ②感染症の講習について ③上半期の振り返り ④ヒヤリハット通信 9/30 防災訓練(火災想定総合訓練)
10月	28日	①各課重大事故 ②感染症の講習について ③次年度に向けた課題抽出 ④BCP見直し ⑤ヒヤリハット通信
11月	25日	①事故ヒヤリの取扱い ②BCP見直し ③次年度体制 ④ヒヤリハット通信
12月	23日	①1月防災訓練について ②BCP見直し ③次年度計画 ④ヒヤリハット通信
1月	27日	①防災訓練の反省 ②防災意識向上月間 ③次年度事業計画 ④ヒヤリハット通信 1/27 防災訓練(夜間地震シミュレーション)
2月	24日	①3月防災訓練について ②防災訓練の反省 ③災害時連絡 ④ヒヤリハット通信 2/24 防災訓練(夜間地震シミュレーション)
3月	23日	①防災訓練の反省 ②災害時連絡 ③事故ヒヤリ法人内新基準 ④ヒヤリハット通信 3/15 防災訓練(火災想定夜間訓練) 3/23(夜間地震シミュレーション)

総括

通期	事業計画に基づき、内容を会議にて検討し実施していくということは、概ね実施できたと捉えています。防災訓練のあり方や普通救命講習、感染症講習、ヒヤリ通信など、課題に即した具体的な取り組みを行なうことができました。みずきとしての包括的なリスクマネジメントの仕組みを確立させていくこと、現場に根づくよう取り組みを形骸化させず見直していくこと等、今後も取り組みを継続していきます。
----	---

重点目標1 非常時対応マニュアルが現場に根づくよう取り組みを進める

通期	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練については、計画通り実施できました。また形骸化した内容とならぬよう、夜間の震災を想定したシミュレーションを3回実施しました。 ・BCPについては、判断レベルの見直しや災害時の連絡方法等検討しましたが、包括的な視点での検討やいかに現場に根付かせるかなど、継続課題となります。 ・感染症対策についてはご利用者向けの講習と職員向けの内部研修を実施しました。また特に冬期についてはインフルエンザ等の発生状況を確認しました。 ・普通救命講習を6月に実施。有益だったと捉え、次年度も実施します。
----	---

重点目標2 事故ヒヤリハット報告を形骸化させず、大事故防止に活かせる取り組みを進める

通期	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット書式の簡素化、提出の奨励、ヒヤリ通信の毎月作成等行ない、I II課とも報告件数は増加しました。 ・大事故・再発防止に向けては、各課のリスク係での取り組みを進めると共に、重要な事故についての検討を運営会議にて行なうようにしました。
----	--

【安全委員会】

会議日		検討・実施内容
4月	22日	登録研修機関要綱の変更、3号研修外部希望者の受入れ検討
5月	日	第3号研修(1回目)開始
8月	26日	各課実施・研修進捗状況、次回研修日程の検討
12月	23日	研修・登録状況、次回3号研修の延期、I課短期入所対応、次年度に向けて

総括

通期	平成27年3月に登録特定行為事業所としての指定が済み、研修を受けた非医療職職員が痰の吸引及び経管栄養を実施する施設に正式になりました。研修や実施記録、ご利用者の同意、医師の指示といった体制の整備をこれまで積み上げてきています。今後制度に則った確実に安全、かつ効率的な実施に更に取り組んでいきます。
----	--

重点目標1 介護職員等による喀痰吸引等の実施を、安全・確実に進めていく

通 期	I II課とも第3号研修の講義・実地研修を進めました。自主的に第1号研修を受講する職員がいる一方、実地研修において生活支援員からの積極的な取り組みが一部見られず、進捗に遅れが出るところもありました。外部からの受講希望はありませんでした。今後短期入所者の実地研修への取り組み等、みずきとしての研修・実施の仕組みをさらに確実なものにしていきます。
--------	---

【人材育成会議】

会議日	検討・実施内容
4月 8日	介助到達度チェック表の振り返り。
5月 13日	①介助到達度チェック表の振り返り。②スーパービジョン研修
6月 11日	入居支援課、男性職員の技術向上研修について
7月 8日	入居支援課、男性職員の技術向上研修について
8月 12日	入居支援課、男性職員の技術向上研修について
9月 9日	入居支援課、職員の技術向上研修について
10月 14日	面談スケジュール、新人職員コミュニケーションについて
11月 11日	新人職員コミュニケーションについて、次年度への課題抽出
12月 9日	次年度予算について、技術向上研修について
1月 13日	次年度事業計画について
2月 10日	今年度の振り返りと次年度事業計画について
3月 9日	次年度事業計画について、新人研修について
総括	
通 期	<p>全体的に入居支援課が中心に話がされており、通所支援課からあまり意見が出てこない状況でした。また、課題の解決には至らない愚痴の言い合いになる場面も多く、進行役の力量と参加者の会議へ臨む姿勢も問われるです。</p> <p>次年度は課の人材育成の課題はそれぞれの課で検討する事とし、人材育成会議ではみずき全体の人材育成について検討する場とします。</p>
重点目標1 研修計画を着実に実行し、知識・技術を高めるだけでなく働く意欲に繋がる人材育成を目指す	
通 期	<p>全体必修研修は年度当初に予定していた項目を年度内に行う事ができました。今年度と次年度の2か年に渡る計画ですので、次年度終了時に振り返りを行います。</p> <p>年3回の面談は、やはり時間の確保が難しく入居支援課の男性が行なえませんでした。その他の部署では3回目の振り返りの面談と個人研修計画シートの記入まで終えています。</p>
重点目標2 キャリアに合わせて配置されている人材育成担当者が連携し、力を発揮できるよう会議を実施する	
通 期	<p>下半期は今年度の振り返りや次年度の計画についての検討が多かったのですが、やはり通所支援課からの積極的な意見は少なかったです。</p> <p>次年度はそれぞれの課の人材育成の課題については、それぞれの課の運営会議で検討し、人材育成会議ではみずき全体の人材育成について検討します。</p>
重点目標3 新人育成についてはチューターが中心となり、心のケアも含めた育成に力を入れる	
通 期	<p>介助到達度チェック表の見直しについては今年度分は終わっていますが、次年度以降も指導職員や新職の意見を取り入れつつ見直しを行っていきます。</p> <p>新職同士のコミュニケーションを11月に行いましたが、その場では新職同士から積極的な意見交換が行われなかったため、次年度は新職が遠慮なく意見を出せるような場を考える必要があります。</p>
重点目標4 法人の人材育成計画に参加し、各施設職員との交流を通して担当者の視野を広げる	
通 期	<p>主任育成作業部会、施設長訪問ともに今年度分の全日程を終えました。グループワークを通して「率直なやりとり」が行なえるよう取り組みました。</p> <p>次年度は今年度参加しなかった職員に、法人人材育成プロジェクトが企画した部会に参加してもらう予定です。</p>

【権利擁護研修委員会】

会議日		検討・実施内容
4月	20日	研修課題の検討。意見投書箱（職員用）の作成、研修委員の紹介ポスター検討。
5月	18日	研修課題の検討。意見投書箱のキャッチコピー「キャッチカエル」と命名。※意見をカエス（ル）
6月	15日	課題「介護現場で起きる権利侵害について」職員の目線にて研修委員内で意見交換を行う。
7月	20日	虐待の事案に関しての施設長からの発信文書を研修委員へ報告。研修課題の検討。
8月	17日	キャッチカエルへ投書された内容の確認。研修課題の検討。
9月	21日	研修内容、日程の検討。
10月	19日	内部研修企画書、活動計画書作成。運営会議にて報告。
11月	16日	内部研修※全4回/1回目実施。同日会議内、研修事前打ち合わせ実施。
12月	18日	内部研修※全4回/2回目実施。同日会議内、研修事前打ち合わせ実施。
1月	18日	次年度、事業計画書の検討。
2月	15日	内部研修※全4回/3回目実施。同日会議内、研修事前打ち合わせ実施。
3月	21日	内部研修※全4回/4回目実施。同日会議内、外部研修報告(障害者差別法合理的配慮)実施。
総括		
通期	<p>11月から3月まで全4回の内部研修を実施。職員の目線から権利擁護を考える機会をテーマに沿って内部研修を行いました。内部研修の都度、現場環境で起こる出来事(場面)を想定した課題を参加者へ提供し意見交換を行いました。結果、ご利用者の権利・理解につながる話し合いができました。</p> <p>内部研修は当初、職員全員参加を基本としていましたが、実際にはⅠ・Ⅱ課部署の介護業務に関わる限られた職員のみ参加に留まりました。内部研修に参加できなかった職員へも研修の内容と権利擁護の理解が伝わるように研修報告を文面として職員の目に留まるように掲示していきます。</p>	
重点目標1 職員の輪を大切にして、ご利用者の権利・理解を深める		
通期	<p>内部研修以外の機会では、意見収集を目的とした意見収集箱「キャッチカエル」の活用の実現には至らず、途中、委員構成の変動があり、実質委員3名となった委員会では、内部研修の取り組みに力を集約する結果となりました。故に引き続き委員会は、職員へ意見を求めます。ある意味試金石であった意見収集を積極的に展開し、意見を言いやすいまたは書きやすいように職員の目線に立ち正解はないがその正解のない課題に職員と一緒に考えることに重点を置きます。外部・内部講習、派遣講師による権利擁護に関する理解を深める取り組みを継続し取り組んでいきます。</p>	

【行事委員会】

会議日		検討・実施内容
4月	9日	内容) 花見の実施について振り返り。みずき祭りに向けて企画の検討。
5月	14日	7月12日(日)にⅠ課のみでバーベキューを11:30~ウッドデッキにて実施予定。雨天時はテイルーム。みずき祭の内容について検討。
6月	1日	7月12日(日)実施予定のバーベキューの内容確認。10月24日(土)のみずき祭の内容についての検討。
7月	9日	みずき祭、企画書の内容について検討、8月の運営会議で企画書を提出。各課で準備を進めて行く。
8月	13日	みずき祭りの企画・計画書についての検討。担当者の振り分けを行う。9月の運営会議で活動計画書と要綱の提出をする為の準備。
9月	10日	9月の運営会議でのみずき祭りについての審議事項の確認。内容の再検討。進捗状況の確認。
10月	7日	みずき祭りの実施要項の最終確認。みずき祭りまでの予定の確認。
11月	12日	みずき祭りの反省と、事業計画の課題の抽出。
12月	17日	新メンバーへの引き継ぎ。ライトアップの実施期間・お花見・次年度の予算についての検討。
1月	29日	次年度の事業計画・年間予定・予算の内容説明と確認。お花見の検討。
2月	18日	お花見についての検討。
3月	17日	お花見についての検討。
総括		

通期	利用者は何かを行う為には職員の介助が必要であり、自分から何がしたいとか、何が出来るのかを考 えることや、どこまで実現できるのか分からないので、職員がきっかけを作り利用者の意欲を上手く 引き出すことが大切と思われます。日々の生活の中では味わえない事を、施設行事を通じ体験して もらい、充実した生活になる様に実施しました。みずき祭りやお花見で楽しそうな笑顔で過ごされて いた利用者を見て、職員も人を支える仕事の大切さや喜びを感じる事ができました。
重点目標1 ご利用者同士の関わりを深める	
通期	みずき祭りでは、利用者同士が直接話すということが少なかったが、入所の利用者の演奏や歌、ユ ニットに展示した作品等の発表を通所の利用者や家族が鑑賞したり、昼食を同じ場所で食べたりして の交流がありました。普段関わる事が少なく、顔や名前を知らない利用者通したが、同じ施設を利用 者として、施設が実施 したお祭を楽しむ事が出来ました。
重点目標2 ご利用者を主体とし職員と協力し作り上げる活動を目的とする	
通期	普段より準備に時間は取ったものの、利用者と共に準備を行う事は大変だったが、積極的に参加され た利用者は、生き活きとされていました。積極的にない利用者は、無理やりにならないように配慮し ながら促し、参加する事で、楽しめるきっかけになったと思います。

【食事委員会】

会議日	検討・実施内容
4月 6日	おやつ作り(6月)に向け、計画の立案
5月 7日	おやつ作りの調理工程・準備用品・時間配分等、具体的な事項の確認、検討
6月 4日	おやつ作りの計画の再検討・最終確認
7月 6日	6月25日実施のイベントの報告 次回のイベントの立案
8月 6日	おやつ作り(9月)に向け、計画の立案
9月 3日	おやつ作りについて、準備用品・時間配分・役割分担等の決定・確認
10月 1日	おやつ作りの報告と反省、次回のおやつ作り、上半期振り返り
11月 5日	おやつ作りの企画、ゴミ袋等の検討
12月 3日	おやつ作りについて、I課食事委員会職員の作業分担について
1月 7日	おやつ作りの報告・反省、次年度予算・課題・起案について
2月 4日	おやつ作りについて、次年度起案・予算について
3月 3日	おやつ作りについて、次年度の起案について
総括	
通期	食事環境の衛生保全、ニーズの聴き取りについては、継続して実施でき、利用者の生活に則した活動 が行えた印象です。全体的にあった業務分担の偏りについては、食事委員間の連携がはかれる様にな り、徐々に改善されつつありますが、まだ体制作りが不十分な状況です。継続して分担や頻度を検討 する必要があります。また、会議ではI課の課題が多かった為、今後は、II課の課題の抽出を行い、 委員会全体で課題に取り組む事が望ましく思います。
重点目標1 ご利用者への聞き取りを行なう	
通期	年間を通して継続。挙げられた意見を、専門職やワーカーに繋げる事が不十分で、支援に活かせない 状況があり、課題の解決に時間が必要です。また、1ヵ月では意見・要望があまりないとの意見も あり、隔月での聞き取りが望ましく思います。普段、意見を上げられない方からの意見を頂けたりと 有意義な計画に思いました。
重点目標2 食事環境の衛生保全	
通期	年間を通して継続できましたが、マニュアルや体制作りまでは至っておらず、業務負担の偏りがまだ 見られている状況です。その為、次年度は、全体で業務を行える様、体制作りを目標にする予定で す。また、清掃時、キッチンにある私物の皿、自助具等が多く、衛生管理に支障をきたしている状況 がある為、管理方法を検討する必要がある様に思いました。
重点目標3 おやつ作り	
通期	6月、9月、12月と実施。参加者の方からの意見で「作業工程が簡単すぎてつまらない」といった 意見が多数ありました。参加者全員のADLを考慮して作業工程を組んだのですが、ADLが高い 方には不満が残った様子です。また、デイサービスの方の帰宅時間を考慮すると、1時間で準備、作 製、試食を行う設定となり、それも作業工程が簡略になった原因です。現段階では一旦中止とし、利 用者から希望があれば、再度、企画する予定です。

【健康管理委員会】

会議日		検討・実施内容
4月	13日	入浴イベント(菖蒲湯)の日程・事前準備・当日の実施手順等を検討。4/29~5/4、全利用者を対象に6回実施。
5月	11日	菖蒲湯実施のふり返りとゆず湯についての検討。口腔ケア研修会の内容についての検討。
6月	8日	口腔ケアDVDを視聴。研修内容についての詳細を検討。
7月	13日	口腔ケア研修会の日程・実施時間等について検討。
8月	14日	研修時のアンケート内容について検討。施設行事時の来所者・職員に向けた健康ブースについての検討。
9月	14日	研修企画提出。アンケート作成。事前打ち合わせ。9/23、25、28、29に研修実施。職員計44名出席。
10月	12日	9月実施した職員向け研修の振り返りと10月施設行事での口腔ケア講習について事前打ち合わせ。
11月	9日	ゆず湯の実施日程等の検討と活動計画書作成。委員会の課題について。
12月	14日	H27年度活動報告と次年度活動内容についての検討。
1月	11日	入浴イベント(ゆず湯)の活動報告。次年度活動予定の確認。
2月	8日	各種イベント湯・アロマ湯について、口腔ケア研修の実施内容について、備品消毒の行い方について検討。
3月	14日	アロマ湯の検討、検証。口腔ケアの具体案の検討。備品等の消毒、清掃の検討。
総括		
通期	計画していた入浴イベントは計画通りに実施出来、利用者からも喜んで頂けました。口腔ケア研修については、今後の職員への研修の導入としてのDVD視聴と考えれば意味のある物であったと思います。	
重点目標1 ご利用者の精神面での健康維持について考え企画を立案して取り組む		
通期	2回の入浴イベントは計画通りに実施できました。ゆず湯に関しては、多めに購入することができ、浴槽に入れるだけでなく浴室に飾ったり、居室でも季節や香りを楽しんで頂けたようです。	
重点目標2 職員及びご家族に対し実用に繋がる口腔ケア研修を行ない、ご利用者の健康維持につとめる		
通期	10月の施設行事の際に口腔ケアDVDや口腔ケアに関する掲示物等などを行いました。掲示場所もあり、なかなか立ち寄って頂けない感じでした。施設に来て頂いた方の目に留まりやすい場所や内容の検討が必要であると感じました。	

【広報委員会】

会議日		検討・実施内容
4月	17日	広報誌の検討、HP活動のページ(4月)進捗「I課(作成中)、II課(作成済)」、HP改修の進捗。
5月	15日	広報誌の検討、HP活動のページ(5月)進捗「I課(作成中)、II課(作成済)」、HP改修の進捗。
6月	15日	広報誌の検討、HP活動のページ(6月)進捗「I課(作成中)、II課(作成済)」、HP改修の進捗。
7月	17日	広報誌の検討、HP活動のページ(7月)進捗「I課(作成中)、II課(作成済)」、HP改修の進捗。
8月	21日	広報誌の検討、HP活動のページ(8月)進捗「I課(作成中)、II課(作成済)」、HP改修の進捗。
9月	18日	前期ふり返り、広報誌編集及び発行、HP活動のページ(9月)進捗「I課(作成中)、II課(作成中)」、HP改修の進捗。
10月	16日	広報誌の検討、HP活動のページ(10月)進捗「I課(作成中)、II課(作成済)」、HP改修の進捗
11月	20日	前期課題抽出、広報誌編集及び発行、HP活動のページ(11月)進捗「I課(作成中)、II課(作成中)」、HP改修の進捗。
12月	18日	メンバー交替の確認。上半期の反省、下半期および次年度の方針を検討。
1月	22日	広報誌の検討：今年度最終号の3月末発行を決定
2月	19日	広報誌の検討：作成途中の各原稿内容、進捗状況の確認。HP改修状況の報告。
3月	18日	広報誌の検討：完成原稿の確認、HP改修およびブログ開始の確認。
総括		

通 期	<p>年度全体を通じて重点目標1、2、3ともに未達成もしくはスケジュール遅れの結果となりました。その要因は上記のとおりですが、12月に行なわれたメンバー交代を契機に少しずつ改善が進んでいることも確かで、次年度に於ける発展の兆候も多少感じられます。</p> <p>具体的には、職員間の意思疎通や情報共有を補強するため「広報連絡帳」を作製、2月より活用しています。また編集ソフトも「Word2010」に替え作業効率の向上を図りました。さらにHP改修が進んだ結果、それまでの「活動報告」欄を3月より「職員ブログ」欄へとリニューアルしました。サンライズと職員ブログ（重点目標1および2）については、編集スケジュールや発行時期の大幅な修正を余儀なくされましたが、最終的には（年度終了時までには）年度当初に設定した年間目標において、最低限の義務は果たしたと考えています。</p>
重点目標1 サンライズの企画・編集・発行を行なう	
通 期	<p>年間を通じて、発行期日の遵守がほとんど実現できませんでした。原因・改善点などは上半期のそれとほぼ同様です。</p> <p>ただ、12月に於ける委員メンバーの刷新により少なからぬ改善点も見られました。広報の編集作業に通じた職員が増加したことや、編集ソフトの変更で編集作業の簡素化が図られた事などです。また責任者(石田)の意向で紙面のレイアウトも一新しました。そのため、新メンバーによる今年度最終号(27年3月・第21号)の発行にこぎつけ、年3回の発行は実現できました。</p>
重点目標2 みずきホームページを改修する	
通 期	<p>上半期、下半期を通じて管理課と委託先とのやり取りが滞り、なかなか進みませんでした。しかし年明け頃(27年1月)から委託業者による改修作業が再活性化され、同3月ようやくHP改修の実現、それに伴う職員ブログの開始に漕ぎ着けました。これにより、3月以降、主に入居支援課、通所支援課、徳武施設長らにより毎月1～3回、HP上のブログ掲載がコンスタントに継続されています。</p>
重点目標3 みずき広報の多様なあり方を模索する	
通 期	<p>27年度は、上記目標1、2の取り組み以上のことに手が回らない状況となり、下半期も同様に手つかずとなってしまいました。次年度の課題と言えます。</p>